

《開催概要》

1. 日時 2022年7月25日（月） 13:50~15:20
2. 場所 愛知県本庁舎6階 正庁
3. 出席者（敬称略）
 - 粟生 万琴 株式会社LEO 代表取締役CEO
 - 石川 良文 南山大学総合政策学部 教授
 - 内田 俊宏 中京大学経済学部 客員教授
 - 鬼頭 雅弘 名古屋大学学術研究・産学官連携推進本部 教授
 - 佐藤 航太 名古屋商工会議所 産業振興部長
 - 佐橋 宏隆 STATION Ai株式会社 代表取締役CEO
 - 柴山 政明 愛知県経済産業局 革新事業創造部長
 - 山下 哲央 一般社団法人中部経済連合会 イノベーション推進部長

《議事次第》

1. 開 会
2. 挨拶
3. 議 題
 - (1) 革新事業創造戦略策定について
 - (2) 県が重点的に取り組むべき政策分野について
4. 閉 会

【挨拶】

○愛知県知事 大村秀章

皆様こんにちは。愛知県知事の大村秀章でございます。第1回革新事業創業戦略会議の開催につきましてご挨拶を申し上げます。本会議の座長を務めていただきます中京大学の内田先生はじめ、大学・企業・団体などご参加いただいた皆様には、お忙しいところ出席いただき感謝申し上げます。また、日頃から県政の推進に格別のご理解とご協力をいただき、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

さて、世界では、アメリカのオースティン、フランスのパリ、中国の深圳などにおいて、それぞれ独自のイノベーション・エコシステムが形成され、また、シンガポールやイスラエルでは、スタートアップを起点として、次々にイノベーションが巻き起こっています。今申し上げたのは愛知県との連携のある国を少し申し上げましたが、さらなるイノベーション創出を巡る世界的な競い合いともいえる状況の中であって、愛知県は、全国に先駆けてスタートアップをイノベーション創出の起爆剤に位置づけ、その推進を目的に2018年、「Aichi-

Startup 戦略」を策定しました。この戦略に従って、中核拠点となる「STATION Ai」の整備、また、スタートアップの創出・育成とともに世界展開支援、さらには、この地域の厚い産業集積とスタートアップとを融合するオープンイノベーションの推進など、グローバル連携を図りながら、強力に進めてまいりました。

一方で、少子高齢化、人口の減少といった構造的な問題、SDGsなどの社会的要請にも対応していくうえで、産業振興のみならず、社会課題の解決や地域の活性化にもつながるイノベーションにも取り組んでいきたいと考えております。

こうした状況を踏まえ、イノベーションの推進もネクストステージに入ったと考えまして、今年4月に愛知県庁に革新事業創造部とイノベーション企画課という新しい組織を立ち上げ、革新事業創造戦略を策定することとしました。この戦略は地域の多様な主体からイノベーション創出を受け付けるプラットフォームとなる仕組みを作ること、そして社会課題解決と地域の活性化の両面を推進できる官民連携のプロジェクトを打ち出していきたいと思っています。現在、国においては、新たな官民連携による社会課題解決を通じた市場創造と成長を「新しい資本主義」と位置付けて、様々な取組を進めることとしています。「革新事業創造戦略」はこの取組を、国に先駆けて愛知県が具体化するものであります。

革新事業創造戦略は12月の策定としていますが、皆様には実効性のある戦略となるよう、それぞれご専門の立場よりご意見やご提案をいただきたいと考えております。戦略の策定と合わせて、官民連携プロジェクトの選定とその具体化に向けた方策について、ご助言をいただきながら、革新事業の着実な実現に結びつけていきたいと存じます。皆様のお力添えをあらためてお願い申し上げます、私のご挨拶とさせていただきます。

【座長挨拶】

○内田座長

一言あいさつ申し上げます。知事からのお話がありましたように、本件、イノベーションという言葉がキーワードになっておりまして、現在の自動車産業をはじめとする製造業の競争力をさらに高めていくには、STATION Ai、革新事業創業戦略会議が両輪になってくるかと思えます。革新事業戦略の方向性を示すうえで、今日お集まりいただいた皆様の方から知見をとりいれながら、企画、策定さらには事業創造フェーズに入っていきたいと思えます。本会議は国に先駆けて官民連携を進めていくための取組を行うものです。どうぞよろしく申し上げます。

<議題（1）：事務局説明>

資料 1-1～1-5 に基づき説明

【各委員発言】

（粟生委員）

革新事業創造提案プラットフォームのマッチングシステムについて、こういったものを一から作っていると時間がかかってしまいますし、10月ぐらいから積極的に使用していきたいと思いますので、あまり構築には時間をかけないほうがいいのではと提案します。すでに他の自治体でも導入されている民間の意見をマッチングするプラットフォームがありますので、いち早くマーケットの声を集めていくべきだと思います。

二点目は私のスタートアップ、2回の創業の経験をもって、イノベーションはカオスな多様な流れの中で生まれると思います。あとはテクノロジーとグローバルの二つの軸が必要だと思っています。愛知県国際展示場やセントレアもありますので、これらをグローバルゲートウェイとして、海外との積極的な交流というものを、広島県のサンドボックスのような海外のスタートアップも誘致するような、そういった施策をご検討いただければと思います。以上です。

（内田座長）

ありがとうございました。セントレアの活動のところで、海外に向けての仕組みなど、国際展示場などの活用が必要と感じました。

それからマッチングシステムに関して既存のシステムを使うことが重要ということかと思えます。少し伺います、マッチングの仕組みってというのはどういう基準でマッチングするのでしょうか。少なくとも今回の技術シーズ研究シーズがあるような大学とか研究所と、実際に主体になるような企業とどういう最適化をはかるのでしょうか。

（粟生委員）

ひとつは名古屋商工会議所さんがやられているメッセなごやにもAIが使用されています。大学の研究室は研究の技術のシーズをいち早く公開し、企業側ニーズがある民間側はウィッシュリストを早くプラットフォームに積み上げています。これらは鶏と卵のように両方数がないとマッチングしませんので、そうなるマッチングのシステムについてはAIや自動化ができると思います。

（内田座長）

ありがとうございました。マッチングシステムの質と量が重要になるということで、こちらのご意見も踏まえながら戦略を考えていきたいと思っています。

(石川委員)

まず質の高い提案がでてくるためには、時間軸としてスピーディーさ、それから長期的な視点、この二つが大切だと思います。プラットフォーム運用前に、色々な方に内容を事前に伝えることが必要だと思います。その上でよい提案が出てきたときに、民間と公的機関のスピード感が違うとまずいと思います。民間のスピード感と公的機関のスピード感を合わせるために、例えば県が支援する場合は、いろんな支援策をスピーディーに行う。民間の速さに合わず、なかなか進まなくて民間がしびれを切らすことで機会を失ってしまうことがないようしていかななくてはいけないと思います。

もうひとつの論点として、優れた提案を選定する際の考え方ですが、優れた提案というものにも規模の小さいものや大きいもの、すぐにやれるものから長期的にならないとできないものがあり、同じ尺度で評価するのはよくない。分類をしたうえで、例えば長期的なものに関しては独自性、革新性で評価するとか、もしくは波及効果や将来性など考えるべきで、短期的に進められるものについては必要性や緊急性などの尺度に重きを置いて評価すべきです。尺度を変えて評価しないといけないと思います。以上です。

(内田座長)

ありがとうございました。非常に大事なご指摘をいただきました。県外企業も含めて呼んでいくという観点から、資料1-2だとプラットフォームの試行運用が10月からとなりますが、広報は早く進めていく必要があると思います。試行運用の開始までに、最初の提案を掘り起こしていくことが、必要になってくると思います。

様々な提案をそれぞれの尺度で、評価軸を別にして評価していくという指摘もとても重要で、評価軸に関してもいくつか違うベクトルを持っているべきだという指摘でした。ありがとうございました。それでは続きまして鬼頭委員お願いいたします。

(鬼頭委員)

大学におきまして研究成果としての知財のライセンスなどを担当しており、その関係で、Tongali（とんがり）で東海地方の大学の研究シーズのベンチャー・スタートアップの支援をしています。そういった観点から発言させていただきます。まず、大学の研究シーズをどうだしていくかということですが、この案件には愛知県だけでなく東海地域の大学を対象としていただいたほうがより多くのシーズが集まるのではないかと考えております。

また、本件の趣旨に合った研究シーズを効率よく出ささせていただくためにも、特に大学の産学連携部門との間でデータベースに入力する内容について事前にすり合わせをしておいたほうがいいのではないかと思います。また、拠点都市の報告会で、大阪・京都・兵庫・神戸の拠点都市からECP-KANSAIというプラットフォームが紹介されており、こういったものも参考になるのではないかと思います。また、革新事業創造戦略会議にいくつか優れた提案をあげていくということですが、そういった中で、それに選ばれなくてもプラットフォーム

ムにアクセスでき、誰もが社会実装につなぐことができるオープンなプラットフォームに
していただくことによって、大学、研究機関、スタートアップやベンチャーなどの大きな課
題であります経営者不足の改善につながるということが期待できますのでよろしくお願
いいたします。私からは以上でございます。

(内田座長)

ありがとうございます。大学の研究シーズについては、本県だけでなく、東海エリアの全
体、もっと言うと中部地方あたりまで広げていったほうがよいというご指摘がありました。

また、グローバル拠点同士の報告会から関西のプラットフォームが参考になるというこ
とで、戦略策定は、グローバル拠点などの事例も踏まえて行っていく必要があると思
います。ありがとうございました。続きまして佐藤委員お願いいたします。

(佐藤委員)

今回、こういった取組を愛知県のほうで行っていただけることを大変心強いと思っ
ております。プラットフォームにアイデアを提案する立場に立つとき、アイデアを出すと
こうなるという観点が重要だと思ひまして、10月から先行的に始めるということ
ですけれども、ヒト・モノ・カネがアイデアを出すことによってどこまでついてきて
くれるのか、もっと言うと、インセンティブとか報酬、権利関連、知財、特許とい
うものが、クリアにわかることがアイデアを出す方にとっては必要かと思ひ
ます。

アイデアは価値だと思ひまして、明確にアイデアを出す、あなたの頭の中を
ぜひ出してほしいというメッセージをどれだけ強く出すことがこのプラットフォーム
には重要だと思ひます。

また、国に先駆けて新しく官民連携プロジェクトをやっていくんだという意気
込みは素晴らしいと思ひまして、そのために官民連携の民には力があるのではない
かと思ひます。そういった方々に対してどういった材料が提供できるのか、従来
の枠組みを超えて愛知県全体でこういった素材があるといったことになると、恐
らく愛知県だけでやっていくのではなく地域の様々なステークホルダーと手を携
えて、素材やアイデアを出すと、こういったことができるのではないかと思ひ
ます。

(内田座長)

ありがとうございました。やはり活発にアイデアをだしてもらうにはインセン
ティブが重要ということで、まず財政的な措置だけではなくアイデアがどのよう
に活用されるのか、アイデアだけ持っている主体者になれないような人たちの
アイデアをどう拾っていくかという視点も重要なことだと思ひました。

(佐藤委員)

アイデアに少し付け加えますと、アイデアがあってもやる人がいない。ミドルマネージャーやプロジェクトマネージャーがどこまでにつくのかということも、実際モノを出していくには重要なので、そこが手当できそうかどうかということもプラットフォームでどう匂わせられるかが大事だなと思います。

(内田座長)

ありがとうございます。やはりマッチングがカギになるかと思います。ありがとうございました。それでは佐橋委員お願いします。

(佐橋委員)

私からは質の高い提案が活発に出てくるにはどのようにしたらいいのかという点から申し上げます。1つキーワードとなっているのが社会課題の解決に取り組むといった点です。私はこれまでの起業や経験上、社会福祉や社会課題を解決する事業の募集を行う機会がたくさんございましたけれども、社会課題の難しさ、事業としてやっていく難しさ、「社会課題」の課題の主語が社会である。一方で、事業でやっていく場合、たった一人の顧客の課題を解決できないと売り上げが上がっていきません。つまり、社会課題を個人の課題まで落とし込むということが極めて重要で、ここをおろそかにしてしまうと出てきた事業アイデアが結局「誰が使うの？事業になるの？」となりかねない。社会課題は皆さん抱えていらっしゃると思うのですが、そこをぜひブレイクダウンしていただいて、社会課題が解決されないことでだれが困っているのかをよりクリアにして発信していくことが大切なのではないかと思います。

また、優れた提案の選定の考え方についてですが、ある程度どういう事業なのかを時間軸で分けて、評価基準を分けることが重要なのではないかと思います。例えば0から1を生み出すような、より革新的なものを選ぶ場合、評価を全員一致して選んでいくか、評価の点数をつけてその平均点が高いものを選ぶ方法であれば凡庸なアイデアしか選ばれないということになりかねない。実際過去に私がやっていたやり方だと、審査員は厳選するのですがその上でたった一人でも最高点をつけていれば合格にしてしまう、そういう少数のアイデアをしっかり拾って検証をしてもらおうと、そういった考え方で評価をしていく方法も行っていました。そういった観点も必要かなと思います。

(内田座長)

ありがとうございました。質の高い提案を行っていくためには、社会課題の解決を個人の課題まで落とし込む、そういった視点も重要だというご意見でした。こういったことはこもごもでも、やはりその辺りもバランスをどうとっていくかが重要なのではないかと思います。時間軸、評価軸で、評価者が尖った意見を採用するというような意見もございました。

最高点で選定するというのは恣意的になるということもあるとは思いますが、確かに平均的なところを採用すると無難なアイデアの採用になってしまいます。この辺りも評価の仕方にもどう織り込めるか、検討していただきたいと思います。どうもありがとうございました。続きまして、山下委員をお願いします。

(山下委員)

革新事業創造提案プラットフォームにおいて、データベースを作成するということが、大学の産学連携本部など、話をできる人間がいるのかどうか大事だと思っております。また、大学の産学連携だけでなくいろんな方が入り組んでシーズを拾い上げていく、データベースに登録することが重要だと思っております。

もうひとつ、技術シーズ、産業側だと思うのですが、私自身も産業側なのですが、申し訳ないのですが情報を出すのが難しい。そういったオープンイノベーションの推進をしていますが、とはいえなかなか情報は出せないでいるところがたくさんあります。一つの手段として、最初に先行して愛知県でたくさんのイノベーションの事例を作り、それをプラットフォームに載せて、呼び水ではないですが、こういったことができることと示されれば我々も参画しやすくなる。最初は難しいかもしれませんが、事例を示すことによってついていきやすくなると思います。以上です。

(内田座長)

ありがとうございました。産学連携本部と話ができる人材の重要性をお話いただきました。やはりシーズを拾う段階で、民間主導なのか、官主導なのか、官民連携なのかそういった話が出てくると思いますので、やはりそのあたりの仕掛けとなるような呼び水があるとよいと思います。

オープンイノベーションに関しては、確かに民間企業では機密情報を出しにくいというのはあると思います。大学の先生、特に理科系の先生についてもオープンイノベーションというよりは直接、民間の企業と取り組んでいるほうが良いというような志向が強い。指摘いただいたようにかなり早い段階で先進事例を作っていくって、シナリオを示していくことが重要なのではないかと思われました。ありがとうございました。それでは柴山委員、お願いします。

(柴山委員)

今回本事業を進めております愛知県革新事業創造部長の柴山です。どうぞよろしくお願います。各委員からの様々な意見をいただきましたので、それについてお話ししたいと思います。

まず粟生委員のプラットフォームに関しましては既存のものを活用するという点については、できるだけ時間をかけずに既存のものを活用しながら工夫したものを作っていく

いと考えております

石川委員からありました長期・短期と時間軸が違うものに関する評価に関しても、複数の評価を変えながら出していくという考え方もとっていきたいと思います。

佐橋委員からお話がありました評価基準の考え方も検討していきたいと思います。

鬼頭委員からお話がありました ECP-KANSAI のような他の地域のプラットフォームに関しても確認していきたいと思います。

佐藤委員からありましたステークホルダーとの連携とのことですが、優れた提案の具体化にあたっては、行政と提案者だけでなく、関係者を含めてワーキンググループを立ち上げたいと考えておまして、そういった中でいろんな関係者の意見を聞いたり、データ分析の手法などもそういったところで議論できればいいかなと思います。

また、提案があった場合、誰が主体となって行うかという話もありましたが、提案者自身がプレイヤーの一員となるのが条件になると思っています。そうすることによって自らやるという責任をもって提案するということと、優れた提案は本当に具体化したいと思っているので、提案者がプレイヤーの一員になってもらうことをひとつ条件にしたいと思っています。

山下委員からお話がありました、産業界は情報を出しにくいのではないかという点について、情報公開の考え方として、情報をオープンにしていいものと、ここ以降はオープンにはいけないという、大前提で我々に提案してもらうという形にしようと思っています。

委員の皆様のご意見にはありませんでしたが、提案には簡単にでも実現可能性の調査が不可欠かと思っています。提案にはマネタイズの仕組みが入ってないといけないかと思っています。もしここで今なにかご意見ありましたらご指摘いただきたいなと思っています。以上です。

(内田座長)

ありがとうございます。プラットフォームでの情報公開は、オープンにできる情報とそうでない情報の2段階にしていける。また、基本的には提案者に主体となってもらうということです。例えば提案の中にこういった企業と組めるのではないかと想定できる場合、その企業が参加するケースであればアイデアとして採用するという場合もありますが、大前提としては、今回の進め方は提案者が主体的に関与するということだと思います。なお、実現可能性の調査について、ノウハウがない方に対しては事務局側から、調査方法や分析方法を教える形ですか。

(柴山委員)

事務局側で簡単なFS調査ができればと思っています。どこでキャッシュインが行われて、キャッシュアウトが行われるかといった全体構造が見えれば、マネタイズの仕組みが入っているか入っていないかがすぐに分かります。それが分かれば、それは行政がやるべき分野

なのかそうでないかが見えてくると思います。そのようなバックアップは行ってほしいと思います。以上です。

(内田座長)

ありがとうございました。それでは各委員からそれぞれ一巡お話はお伺いしましたが、他の委員のご発言を受けて、さらに追加のご発言がある方はお願いしたいと思います。

評価者については、尖った視点でとるのもありつつ、公平性や客観性は必要かと思います。ただ、やはりインパクトのないものを扱っていくというのは避けたいと思います。

(鬼頭委員)

選定に関してですが、選定対象となる分野に詳しい人を選んでいただくとともに、VCの方にも入っていただき、ビジネスとしてお金が取れるのかといった観点でも選定いただくといいかと思います。

(柴山委員)

評価に関してはこの戦略会議の構成員の皆さんにお願いしようと考えていますが、専門的な分野が入った時には、例えば農業であったら農業のアドバイザーがいるといった形で、共通の認識ができるような会議にしていきたいなと思っています。

(鬼頭委員)

理解しました。それぞれの専門家を都度呼んで検討できればと思います。正直、私も専門的なことに関して全てわかっているわけではないですし、ビジネスやマネタイズのことなどもあまり詳しくないですし、そういった視点の専門性を有した方も必要と思います。

(内田座長)

それではひとまず議題(1)についてはこのあたりで終わりにして、議題(2)「本戦略における重点政策分野の設定の考え方」に入っていきたいと思います。まずは事務局のほうから説明をお願いいたします。

<議題(2):事務局説明>

資料2に基づき説明

【各委員発言】

(粟生委員)

この地域では製造業が発展を担ってきましたが、皆さんご存じの通り、百年に一度の転換期となっています。その一方で、農業が愛知県では盛んですし、製造業のこれまでの改善ノ

ノウハウとイノベーションを掛け合わせる新しい農業を重点分野にすることによって、世界の食糧危機ですとか日本の食料自給率を支える、製造業のメイドインジャパンのように、まさに農業のメイドインジャパンを愛知県から創出していくことができるのではないかと考えています。従業員が1000人以上いる農業法人が少ないということもひとつの課題となっておりますので、農業ベンチャー・農業法人、かなり規模のある農業法人を作れないかと考えています。他の事例でいいますと、三重県の玉城町で個人が保有しているバラバラの農地を一つに集めて、グローバル農場として作り直して、Zespriのキウイを生産しています。そういった海外との連携というマーケティングの戦略を含めて、愛知県の農業というものも産業の一つになるかと思えます。

2点目はドローンについてです。ドローンのベンチャーは愛知県ではいくつかありますがけれども、ドローンパイロットが不足しているというのが今の課題です。愛知県は航空機産業が強く、実際、愛知県はパイロット免許の保有率が高いというのがあります。法改正含めて新しい航空機産業、輸送産業をいち早く政策、規制緩和を含めてこの地域から創出してあげればいいと思います。この2点のアセットを生かしたイノベーションの創出ができればと考えています。以上です。

(内田座長)

ありがとうございました。農林水産業は、デンソーさんが隣の三重県でやっておられたりして、空調システムや収穫システムなども本県でもやっていただきたいと思います。農林水産業を重点的にやっていくということですね。

(粟生委員)

そのためにも行政が小さな農地をまとめて、大型の農地にするなどできるといいと思います。

(内田座長)

また、ドローンの話もありました。ドローンは農林水産業以外にもかなり活用の可能性はあると思いますので、農林水産業を始めほかの重点分野にも入れ込んでいただければと思います。また、自動車産業のノウハウに関しては「健康長寿」や「防災・危機管理」など全ての分野に密接に関係していますし、自動車産業からの派生分野として考えていくこともいいのではないかと思います。

今回、文化芸術分野もあります。デザインやブランド力の視点も入れ込んでいくと、文化芸術分野でも自動車メーカーも取り込んでいけるのではないかと思います。ありがとうございました。続きまして、石川委員お願いいたします。

(石川委員)

政策リソースを重点配分する観点で、重点分野を定めるのは大事ですが、どんなアイデアが出てくるかわからないので、重点分野以外でも受け付けると強く言っていないといけないと思います。

重点分野からいくつかピックアップすると、私は「健康長寿」「農林水産業」には大きな課題があり、イノベーションの可能性があると思っています。特に「健康長寿」は国の経済財政諮問会議でも長年大きく議論されていますが、医療費はずっと上がっています。そういった大きな課題を解決するためにも、健康寿命だけでなく、それによって医療費の削減ができるということが言えると非常に良いと思います。また、健康長寿は世界的な問題で、海外にも打ち出せるようなイノベーションを期待したいと思います。今日提案のあった7つの重点分野のスポーツとも親和性が高く、スポーツをする中での健康長寿、これも大きなテーマの一つとなると思います。

農林水産業については、愛知県は、非常に高いレベルにありますが、担い手は不足しています。そういう意味では生産性を向上させる、大量生産をどう実現するのかについても大事なテーマだと思います。

また、グリーン・トランスフォーメーションはカーボンニュートラルの問題が長期的に覆らない課題ですから、これに重点的に取り組んでいくことは世界的にも重要であり、社会的に意義があります。それから資源循環も重要なテーマです。

最後に何度も申し訳ないのですが、大きなイノベーションはすぐ上手くいくものではなく、長期的な視点が大事です。例えば EU では長期的な取組と考えると、資金的にも支援をし、そしてしばらく様子を見たうえで、うまくいったらそれを横展開、知識を共有するという取組を行っています。また、フィンランドのヘルシンキでは、市民参加の小規模な社会実験を実施し、評価結果によって、次の段階へ進むプログラムを実施しており、市民や企業、行政のコーディネートを担う組織を設けています。つまり、小さなところから始めて、うまくいったら大きくしていくというように取り組んでおり、こうした点を見習うと良いと考えています。以上です。

(内田座長)

ありがとうございました。いろいろな視点をいただきました。プロジェクトの提案は重点政策分野以外でも出てくる可能性はあるので、どんな分野でも受け入れるような体制・政策でお願いしたいと思います。

目先の成果を重視するだけでなく、長期的な視点が重要であり、長い目でフォローアップしていく必要があるとのお指摘もそのとおりでと思います。

グリーン・トランスフォーメーションに関して国は2050年カーボンニュートラル・2030年46%削減を目指していますが、現状では愛知県は温室効果ガスの排出量が全国2位であり、この課題の解決につながるアイデアも必要かと思います。それでは続きまして鬼頭委員おねがいます。

(鬼頭委員)

今回7つの重点分野が提示されましたがどれも重要なテーマだと思います。しかし7つは少ないようで多いような印象がありまして、最初は間口を広くして受け付けることが必要だと思いますので、提案内容を見ながら整理を行っていく必要があると思います。

重点分野における先進事例や愛知県内での取組について説明いただきましたが、大学の取組が少ない印象を受けました。もっと大学を巻き込んでいってもいいのではないかと思います。グリーン・トランスフォーメーションに関しては大学の研究などで大いにやっていますし、本学でも今年の4月に脱炭素社会創造センターも立ち上げましたのでそういったものも巻き込んで行っていったらいいと思います。さらに愛知県で培ってきた分野、自動車産業の独自技術をいかせる分野も必要になってくると思います。

そのほかにも、それぞれの分野については国が様々なプラットフォームやプログラムを展開し、地域独自の研究も行われていますので、参考にできると良いと思います。以上です。

(内田座長)

ありがとうございました。大学の取組は非常に重要ですし、学生は若くパワーもあると思います。その辺も取りこんでいきながら、進めていければと思います。ありがとうございました。次は佐藤委員おねがいます。

(佐藤委員)

先ほど話もありましたが、健康長寿の件は非常に可能性があると思っています。県の政策として挙げると国立長寿医療研究センターがありますが、その隣にはあいち小児保健医療総合センターもあります。愛知県は、人のライフサイクルの始まりと終わりの両方からケアできるリソースを持っていることが特徴的だと思います。ぜひこれを活用していただきたいと思います。イノベーションの種になるのではないのかと注目しているのはデジタルアプリケーションです。一人一人の体格や健康状態に合わせる必要があり、簡単には制作できない人工関節、義足などがありますけれども、デジタルアプリケーションの進展により、個々に適したサポート器具やウェアラブルデバイスなどの開発が随分と発展していると聞いています。また、大学や研究機関の役割が重要であり、しっかりと連携していきたいと思っています。この地域では中部地域の医学部や研究機関のネットワークとして、名古屋大学が事務局の中部先端医療開発円環コンソーシアムや、商工会議所が事務局のメディカル・デバイス産業推進協議会がありますので、こういったところと連携しながら進めていけないかと考えております。

文化芸術に関しては少し硬い印象がありました。もうすこし音楽など柔らかい感じを取り上げられないかと思います。例えば、先日 Zip-FM が主催するサカエスプリングのイベントを拝見しました。東京や大阪からブレイク前のアーティストが来てくれるという点が特

徴で、愛知に来てくれるというのは珍しいのではないかと感じております。米国のサウスバ
イサウスウェストも最初は音楽イベントとのことであり、こういった字業務も可能性があ
るのではないかと感じました。

また防災では、名古屋空港に隣接する場所に大型の防災拠点を整備されると聞いていま
す。防災・減災はもちろん重要ですが、救出した後の医療やケアなどのメディカルサービス
もありますし、メディカルツーリズムも進められるのではないかと考えています。

最後にグリーン・トランスフォーメーションに関してはカーボンニュートラルのほか、マ
イクロプラスチック問題や、海洋プラスチック問題が非常に重要だと思います。何年か先
には海を漂っているプラスチックの質量と海にいる魚の質量が同じになる、あるいは超えて
しまうという予測がされています。大学等の研究と連携しながら、プラスチックの回収技術
や代替素材の開発・利活用手法などいろいろなシーズを考えていかなければいけないと思
います。名古屋商工会議所も3年前に代替プラスチックの開発に関わるイベントを開催し
ました。最近では、皆さんが日常で使われるようなクリアファイルも再生プラスチックが使
われているようです。こういったことに関してもどんどん進められるのではないかと思
います。

(内田座長)

ありがとうございました。健康長寿に関しては、県の医療施設や国の研究機関と連携して、
先進的な取組の進展につながっていくとよいと思います。文化芸術は、愛知県が弱かった部
分ではありますけれど、こういう分野が重要になってくるということですので、幅広に考え
ていただければと思います。ありがとうございました。続いて佐橋委員お願いします。

(佐橋委員)

7つの重点分野に関して言うことはありませんが、本戦略において製造業をどう見せて
いくのかということが気になりました。例えばカーボンニュートラルやDXにしても、製造
業とエネルギー産業があってこそ成り立つものです。今STATION Aiでスタートアップを
随時募集しておりますけれど、最近、県外さらには海外からの企業も多く、そういう方は
やはり愛知県の強い強い既存の産業基盤を魅力的に感じており、例えば製造業のDXをし
たいという話をもってくるスタートアップも多いです。そうした方に伝わるような見せ方
ができないかなと思いました。

また、例えば7つの分野に関して提案者がFS調査をする際に県が参考として提供できる
アセットがこういうものがありますよと提示してあげるといのも一つのアイデアかなと
思いました。例えば愛知県が持っているデータをお渡しするのでこれを活用してください
など、そんなデータアセットを提示するのもいいかと思えます。以上です。

(内田座長)

ありがとうございました。重点分野として、7分野を前面に出すと製造業が見えにくいため、自動車や土作機械などとの関係をどのような見せ方とするのかも重要だということでした。またFSに関しては行政が持つデータの提示、データアセットの活用をしていただきたいとの意見をいただきました。ありがとうございました。続いて山下委員をお願いします。

(山下委員)

重点分野を設定することはよいと思います。日本では優れた研究データは各方面であります。社会にインパクトを起こすことができていると感じます。そのため、ある特定の分野にリソースを投入することが重要ではないかと思えます。

また、横串のGX、DXは重要なテーマであり、どのように産業に紐づけて産学連携で取り組んでいくのか戦略会議で検討できればいいと思います。

個別の分野では農林水産業を伸ばしていくべきではないかと思えます。農業系のスタートアップと話をする機会がありましたが、新しいグリーンハウスを作る際、CO2の濃度が1000ppm必要なため、重油を使うという話になりましたが、カーボンニュートラルの視点からは、あり得ない。何のためにやるのかということになります。また、粟生委員から農地の大規模化という話がありました。大規模に作れば、製造業のノウハウとのシナジーも期待でき、効率の向上が図れるとは思いますが、非常に難しいのが現状です。各市町村の力も必要であり、そうしたことができれば、非常に大きな変革になると思えます。

(内田座長)

ありがとうございました。製造業と農林水産業、生産性はとても重要な指摘で、今後食料自給率や、ロシアとウクライナの問題もありますので解決していく必要があると思えます。ありがとうございました。それでは柴山委員にお願いしたいと思います。

(柴山委員)

各委員の皆さん、ご発言ありがとうございます。

まず粟生委員からご発言のあった農業に関しては、愛知県では現在あいち農業イノベーションプロジェクトを進めております。さらにこれをブラッシュアップしていきたいと考えております。また、海外の連携に関して、農業国のイスラエルと連携をする話や、シンガポール大学でも力を入れたいという話があり、海外のスタートアップで農業に力を入れている企業もあるので、県と海外機関との連携事業のなかでも考えていきたいと思えます。

ドローンについては非常に重要だと思っております。スタートアップの中でもフォローしておりますので、力を入れていきたいと思っております。

石川先生の重点分野以外も受け付けるべきとお話については、今回創設する革新事業創造提案プラットフォームでは分野を問わず受け付けることとしております。

また、鬼頭先生のご発言に関連して、プラットフォームに登録する研究シーズ等のデータ

ベース化については、この地域の大学との連携をしっかりと進めていきたいのでよろしくお願いたします。また、国レベルの情報も加えて行きたいと思います。

佐藤委員から、健康長寿や文化芸術、防災、GXに関してご意見をいただきました。この地域の取組やアセットを整理・分析し、取り組んでいきたいと思います。

佐橋委員や山下委員からありました、戦略の打ち出し方ですが、県だけではなくこの地域の様々なアセットを体系化し見える化することで、テーマを広げてもシナジー効果を創出するよう見せ方を工夫し、国内外のオープンイノベーションにつなげられるようにしたいと思います。

また、FS 調査における県からの情報提供については、アセットやデータ、先進事例を含めてしっかり考えていきたいと思います。

(内田座長)

ありがとうございました。地域のアセットの利用について、県が示したアセットに関して、一定期間、提案を募るようなキャンペーンを行うといった方法も考えられると思いました。

また、提案の具体化に向けて、官民連携、民間主導、行政主導というパターンに仕分けしていくと思いますが、官民連携の場合、補助金目当てになることもありますので、上手く仕分けしていくことは必要だと思います。

(粟生委員)

私のスタートアップのきっかけになったサウスバイサウスウエストですが、実は2014年頃に東海地方でもサウスバイサウスウエストができないか、という構想がありました。佐藤委員がおっしゃった Zip-FM がやっているサカエスプリングというのはインディーズミュージシャンの発掘の場であり、これは実はスタートアップの動きとすごく似ています。アンダーグラウンドの中から、成長して、それをみんなが応援するというのが同じなのです。日本のイノベーションにはエンターテインメントが必要なので、サカエスプリングでサウスバイサウスウエストの愛知版というのをぜひやっていただきたいし、自分もぜひプロデュースしたいぐらいです。サカエスプリングにも来るアーティストは名古屋出身も多いですし、難波出身の方もいます。エンターテインメントのカオスの部分からイノベーションが生まれると思います。ぜひ愛知県から発信できるような仕掛けが必要だと思います。

(内田座長)

各委員からいろんな意見をいただきました。次は10月に第二回の会議を開催し、中間取りまとめが予定されています。先進事例調査などもフィードバックしていただいて、かなり時間的にもタイトですが、そのあたりも今回の議論を踏まえて戦略の策定を進めていただきたいと思います。それでは今日の議題は以上となります。